

はじめに

自分らしさを見つけ、自分に自信が持てる。

これが本書のテーマです。本書でご紹介する内容は、私がこれまでに携わったコンサルティングにより培った経験と知識と技術により築き上げたノウハウです。ファッション関係の本が世の中にたくさんある中で、あえてお伝えしたいと思ったのは、かつての私と同じように自信がなくて、それでも自信があるように見せかけるしかなくて、なんとか頑張っている人に向けて、見せかけの自信ではなく本物の自信を持てる方法の一つとしてファッションがある、服を変えるだけで自信を手に入れられるということを知ってほしかったからです。ファッションで可能性を自分で引き出せること、可能性を広げることができることを知って、これほど楽なことはないと思いました。なぜ、そう思うのか、それは実際に私が経験したからです。

いまでこそファッションを専門に仕事しておりますが、この仕事を始める前はフリーランスのライター業をしておりました。大手銀行さまの内部向けマニュアルをウェブ化する業務が担当です。総勢

120名の大きなプロジェクトチームで、私だけがプロデューサーへと昇格いたしました。プロデューサーになって一番初めに困ったのが実は服装でした。ライターのときは服装はなんでもよかったのですが、プロデューサーになると銀行本部での打ち合わせが増えます。銀行員はダークスーツですから、私も悪目立ちしないように地味で無難な服を選びました。その頃からだんだんと社長と折り合いが悪くなっていき、ある日社長に呼ばれ、契約更新されないことを告げられました。6年続き順風満帆に見えた仕事はあつけなく終わりました。仕事は真面目に取り組んでいたつもりでしたし、特に大きなミスをした記憶もありません。どうしてリストラされたのだろう、私の何がいけなかったのだろう、私ってダメな人間なんだとすっかり自信をなくしました。一番つらかったのは、翌日からもしばらく会社に行かなくてはならず、同僚から「ダメなやつ」というさげすむ目で見られているように感じられたことです。誰からも直接的に言われたわけではないですが、それでも同僚へは新しい仕事が託される中で、私だけ仕事を与えられないつらさはたとえようのないものがありました。

その後、たまたま友人に誘われて私自身がイメージコンサルティングを受診しました。それまで自分のファッションセンスを疑うこともなく、困っていると感じたこともなく過ごしてきましたので、人には似合う服と似合わない服があるという概念を知り衝撃を受けました。コンサルティング時にたくさん

持ち込んだ服は、「すべて違う」と言われ、帰りがけに駅のごみ箱に捨てて帰ろうかと思っただぐらいでした。そのとき、あることに気付きました。もしかしたら、地味で無難な服を着ていたからリストラされたのかも……。と同時に、ダメなのは私じゃなくて服だった、そう思ったら、ずっと気持ちが悪くなった救われました。そこで、服が仕事や周囲の人に及ぼしている影響、きちんとしていれば良いというわけではない、自分らしい服を選ぶことの大切さを伝えたい、そう思い、いまの仕事を始めました。

とはいえ、「自分らしい」といっても、その自分らしさがわからないから悩んでいるのが本当のところだと思います。その自分らしさを見つける手段としてイメージコンサルティングがあります。その手法がパーソナルカラーとパーソナルスタイルです。本書では、私が日頃行っているイメージコンサルティングの手法を紹介しつつ、あなたが自分でその答えを見つけられるように、そのノウハウもお伝えしております。

第1章では、自分らしい服とはどういうものなのかについて解説します。

第2章では、ファッションのルール（色）、パーソナルカラーについて解説します。

第3章では、ファッションのルール（形）、パーソナルスタイルについて解説します。

第4章では、自分に調和する色の見つけ方や選び方、使い方について解説します。

第5章では、パーソナルカラーに基づいたメイクの色の選び方について解説します。

第6章では、私が一番大切に考えている行動特性について、そしてそこからひろがる自分らしい服の選び方について解説します。

これまでの思い込みを忘れて読み進めてみてください。自分らしきとは何か、おぼろげながらもわかっていただけると幸いです。あるお客さまが「富山さんには人を幸せにする力を強く感じる」と言ってくれました。とても嬉しいです。あなたも自分に自信が持てるようになり、その自信が前へと進む一歩になるよう願っております。